

# 3710Lab DOCUMENT UKU 17-18

REPORT : A VIEW FROM 3710LAB  
A MAGAZINE MAKING PROJECT  
BY HIGH SCHOOL STUDENT  
CO-WORK WITH "SHIMA-HE"

ドキュメント：  
「宇久島の未来をつくるプロジェクト」

## 3710Lab

3710Labは、「海・学び・ヒト」をテーマに、「学び」のアイデアや新しい時代の教育のあり方をデザインすることを活動目的としています。東京大学海洋ライアンス海洋教育促進研究センター特任講師の田口康大が主宰として活動している団体です。

仙台事務所：〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉3-4-45 -301 / 東京事務所：〒113-0032 東京都文京区弥生2-11-16 東京大学理学部3号館320C  
TEL: 090-3502-3481(代表) 03-5841-4641(田口)  
MAIL: info@3710lab.com WEB: 3710lab.com

## 『島へ。』

日本で唯一の島マガジン。島旅情報、島の歴史と文化、自然と暮らし、離島問題など島に関する事柄を幅広く取り上げる。特集でいくつかの島にスポットを当てるほか、島を愛するライターやカメラマンによる記事も連載。

発行：海風舎 / 発売日：年6回・奇数月15日(隔月刊誌) / 住所：〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-14-4 東方通信社ビル  
TEL: 03-5283-8019 MAIL: simae@kaifusha.com  
WEB: www.kaifusha.com

## プロジェクトに関する問い合わせ

一般社団法人3710Lab  
TEL: 090-3502-3481(代表)  
info@3710lab.com 3710lab.com

## 海風舎

TEL: 03-5283-8019  
simae@kaifusha.com  
www.kaifusha.com

本事業は公益財団法人日本財団の助成により実施しています

離島の高校生たちが雑誌づくり。自分たちの手で島を知り、考え、発信！  
海と人とを学びでつなぐ「3710Lab」と日本で唯一の島マガジン『島へ。』とのコラボレート事業。

ABOUT

3710Labでは昨年4月より日本で唯一の島専門雑誌『島へ。』（発行：海風舎）と連携し、離島で暮らす高校生に自分たちの島について学んでもらい、その魅力や可能性を『島へ。』というメディアを活用し、みずから手で発信するプロジェクトを実施しています。昨年は大島（宮城県気仙沼市）で実施し、今年は宇久島（長崎県佐世保市）で実施しました。長崎県五島列島の最北端にある宇久島は、美しい海をはじめとした自然に囲まれ、古くからの歴史・文化に彩られている豊かな島です。しかし、近年は島外への人の流出が激しく、人口は最大約1万1000人から約2000人にまで減少しています。そのような課題を抱えている島内唯一の高校である長崎県立宇久高等学校（総数26名）では、生徒が主

体となり地域参画型の探究活動「Uku Labo（ウクラボ）」を立案し、地元産の魚介類を使った魚醤を開発するなどユニークな取り組みを実践し、地域を盛り上げています。本年のプロジェクトに参加したのは、この宇久高校の3年生10名。プロジェクト名を「宇久島の未来をつくるプロジェクト」とし、ワークショップなどで『島へ。』の編集者やデザイナーと議論しながら、企画立案・取材・執筆・編集を行いました。ここではその過程をご紹介します。なお、完成した誌面は『島へ。』vol.102（2018年12月号／11月15日発行）に第2特集として掲載されています。次年度以降もこのプロジェクトは実施していく予定です。興味・関心がある方は本紙に記載してある連絡先に一報ください。

## DAY 1 APRIL.12 THU.

PLANNING

LESSON 1  
企画の概要説明の後、『島へ。』編集部の熊本鷹一さんを講師に、島そのものの特殊性や魅力について考える。



LESSON 2  
第1回編集会議を実施し、雑誌づくりのレクチャーと特集テーマについて検討する。



## DAY 2 MAY.14 MON.

DESIGN

LESSON 1  
スタジオ・ブントビルゴラのデザイナーである吉村雄大さんを講師にデザインワークショップを実施。ラフレイアウトをつくる。



LESSON 2  
生徒一人ひとりが完成したラフレイアウトと記事の構想を説明する。第2回編集会議を実施し、宇久高校の地域活性化プロジェクトUku Laboで開発した魚醤をテーマにした記事の構成を考える。



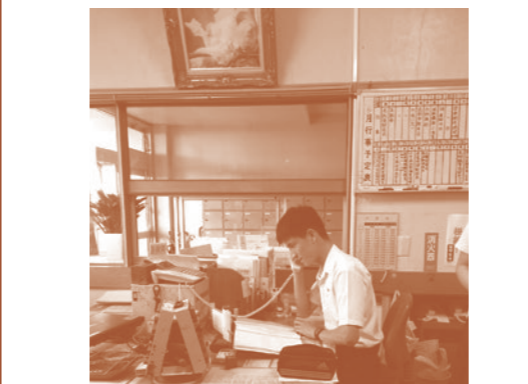
## DAY 3 JUNE.7 THU.

PLANNING

LESSON 1  
人口減少など宇久島が抱える課題と解決策について生徒一人ひとりが考え、発言する。



LESSON 2  
第3回編集会議で記事テーマと担当者を決定し、宇久町観光協会の榎垣督事務局長をゲストに迎えて、取材先を選定。また、取材目的や聞きたい内容を検討した上でアポイントメントを取る。



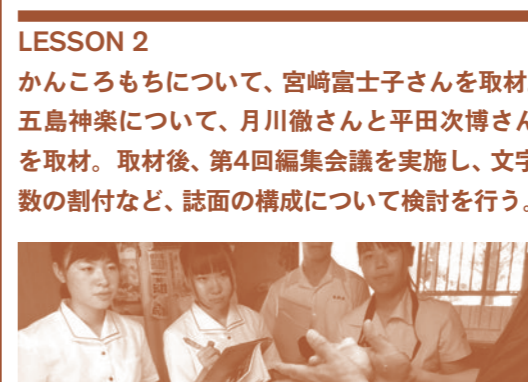
LESSON 2  
かんころもちについて、宮崎富士子さんを取材。五島神楽について、月川徹さんと平田次博さんを取材。取材後、第4回編集会議を実施し、文字数の割付など、誌面の構成について検討を行う。

## DAY 4-5 AUGUST.1-2 WED.-THU.

INTERVIEW

夏休み期間中の課外活動として、2日間にわたり取材と第4回編集会議を実施。

LESSON 1  
かんころもちについて、榎セツ子さんと森田清文さんを取材。宇久島の魚介類について、宇久小値賀漁業協同組合宇久支所長の里村昭弘さんを取材。鯨文化について、大岩保雄さんを取材。



また8月・9月は、執筆期間として各自記事を執筆。5月につくったラフレイアウトをベースにしながら、誌面構成を練り上げていく。

## DAY 6 OCTOBER.8 MON.

WRITING&EDIT

第5回編集会議を実施し、全員で各ページのゲラをチェックし、記事やデザインに関する改善点を議論。夕方、鯨を活用した料理を提供している食堂を運営する榎嘉千代さんを追加取材。



## NOVEMBER.15 THU.

『島へ。』(Vol.102)が刊行。

